

基礎医学委員会（第 26 期・第 3 回）議事要旨

I 日 時 令和 6 年 10 月 22 日（火）12：00～13：20

場 所：日本学術会議 6－B 会議室及びオンライン会議システム併用
（東京都港区六本木 7－2 2－3 4）

参加者（五十音順、敬称略）

（現地）五十嵐、岡村、金井、狩野、神田、佐々木、西谷、野田、古屋敷、山田、柚崎、
米田、渡辺

（オンライン）加藤

（欠席）安友

II 議 題

(1) 前回議事録について

五十嵐委員長より、前回議事録案についての内容確認依頼があった。一部の誤字の修正が指摘され、修正案が承認された。

(2) 分科会の活動状況ならびに活動方針について

五十嵐委員長より分科会設置状況について「分野別委員会 活動報告」の報告があった。それぞれの分科会について追加説明がなされた。

形態・細胞生物医科学分科会（渡辺委員）

令和 6 年 10 月 24 日に第 1 回目の分科会を開催予定である。高校生に生命科学の面白さを伝えるため、高校生と研究者の交流会を来年提案する形で準備している。

IUPS 分科会（岡村委員）

2025 年にフランクフルトで IUPS コングレスが開催されるにあたって準備が進められている。特別講演者（日本からの 2 名）が決まるなど現在準備が進められている。

神経科学分科会（柚崎副委員長）

脳倫理に関する見解は令和 6 年 11 月 11 日を締め切りとして改訂中、査読を終えて年度内に表出する予定。令和 6 年 7 月 27 日に日本神経学大会にて日本学術会議の後援を得て開催をおこなった。日本神経科学学会・日本脳科学学会連合・生物科学学会連合とともにいわゆる「雇い止め問題」などについて現場の声を出すため分科会として Web アンケートを行い、2465 名の回答を得て、それを令和 6 年 9 月 22 日に文科大臣に手交した。今後、分科会を超えて全体的な議論になることを希望する。

IUBMB 分科会（五十嵐委員長）

令和 6 年 11 月 6 日に第 1 回の開催予定し、委員長の選出予定である。令和 6 年 9 月にオーストラリアで IUBMB 総会があり、所属委員 2 名および生化学会会員 1 名が代表として参加し、審議に参加した。

IUPHAR 分科会（古屋敷委員長）

薬理学・創薬科学の発展および国際プレゼンスの向上を目的として、国内の薬理科学関連学会、及び、IUPHAR（国際薬理学連合）やその支部の APFP（アジア太平洋薬理学者連盟）と連携した国際活動を推進している。2025 年にはオーストラリアで APFP・豪州薬理学毒性学学会の合同学会が開催され、2026 年には同じくオーストラリアで国際薬理学会が開催されることから、国内の薬理科学関連学会と連携して、これら国際学会へのシンポジウム等の提案を検討している。

ICLAS 分科会

関係委員不在のため書面での報告となった。

機能医科学分科会（金井委員）

機能医科学分科会では人材育成や学際研究を含めて行っている。シンポジウムは来年 3 月に合同大会があり、その中に連携シンポジウム「基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケア」というシンポジウムを開催予定である。

アディクション分科会（西谷幹事）

2024 年 5 月 26 日に国際神経精神薬理学会世界大会（CINP 2024）において、日本学術会議共催にて市民公開講座プログラム「アディクションの克服に向けて」を実施した。前半では「アディクションの脳内メカニズムと治療法の開発」として海外からの講師による講演、後半は「これからのアディクション対策」として立法、行政、産業、アカデミーの各領域より討論を行った。

動物実験分科会

関係委員不在のため書面での報告となった。

(3)第二部査読体制への対応について

五十嵐委員長より査読体制の現状報告があった。第二部として査読が必要な時に査読が担当できる人を推薦する依頼があり、基礎医学委員会より、沖縄科学技術大学院大学の銅谷賢治連携会員、国立研究開発法人理化学研究所の incoming 連携会員、そして委員長である五十嵐和彦会員の 3 名の推薦を行った。今後、依頼があった時にはその他の分野でも協力要請

の可能性がある。

(4)その他

柚崎委員より神経科学分科会から表出予定の脳倫理に関する見解の状況説明がされた。五十嵐委員長より研究力強化委員会についてのヒアリングへの協力依頼があった。日本学術会議の在り方について委員会内で意見交換を行った。